

# トイレ

## ■トイレの現状の問題点 1

多目的トイレの設置数 /使用用途	多目的トイレなので母子との併用がある 施設内に多目的トイレが2つしかない (少ない) 多目的トイレだとオムツ替えで利用の人とイベントの時に取り合いになる オムツ替えのトイレと共用だと混む 1階、2階に多目的トイレがあるが3階には無い
---------------------	--



多目的トイレ=多機能トイレのため多くの人が使用できる設備に  
なっていることによる問題が生じている

### <短期的な解決の方向性>

- オムツ替えや授乳用の臨時スペースを別に設け利用が重ならないようにする
- 一般トイレが利用な人へは多目的トイレではなく一般トイレの利用を促す (空いている場合でも)
- 各案内情報に多目的トイレがある階を明記し、事前に利用者へ伝える

### <中長期的な解決の方向性>

- 全ての機能を1つの個室に入れるのではなく、授乳室等を別途設けるなど用途を分散できるような設計を検討する
- 多目的トイレしか利用が出来ないユーザーがいることを他の利用者に理解してもらう (啓蒙)

## ■トイレの現状の問題点 2

多目的トイレの大きさ	人が2人で入ると狭い (介助者と一緒に入る場合も多い) プラザ1階の車椅子トイレは狭い。回転が出来ない
------------	--



### <中長期的な解決の方向性>

- 障害当事者だけでなく、介助者も含めた利用の実態に合わせた設計を検討する

## ■トイレの現状の問題点 3

トイレ内の標準設備	車椅子視点だと鏡の位置が見えない 鏡の高さ。傾斜があると見やすい 流すボタンがバラバラ。位置も方法も 最近のトイレは流し方が分かりづらい。 ペーパーの位置が分かりづらい 足踏み式や小さなゴミ箱が開けられない 3階トイレ手すりが短い 3階トイレゴミ箱が小さい トイレバー (ステンレス) 滑る。握力が無いため オストメイト用のホースの使い方が表示が必要 オストメイト用のホースの位置届かない 洗面台の下に空間がないと車椅子だと遠くなる 洗面台の手すりは大きすぎて手が届かない。石鹸とか トイレに背もたれがあるといい 荷物置きや上着をかける場所がない 杖のホルダーがあると良い
-----------	---

# トイレ



## <短期的な解決の方向性>

- 現状の設備の点検 (JIS S 0026を参考) →可能であれば設備の設置箇所の変更
- トイレの使用方法についての案内作成
- ゴミ箱の仕様や設置場所についての工夫 →便座に座った状態や車椅子ユーザでも使用できるように
- 衣類かけや杖ホルダーなどは取り付け可能な設備の設置検討及び設置  
→利用者の実態に合うように多目的トイレ等では車椅子に乗ったままで手が届くような高さや場所への設置が必要

## <中長期的な解決の方向性>

- トイレの改修検討

## 参考情報

JIS S 0026:2007 高齢者・障害者配慮設計指針

公共トイレにおける便房内操作部(便器洗浄ボタン及び呼出ボタン)の形状、色、配置及び器具の配置

対象トイレ：不特定多数の人が利用するトイレ全般

対象便房：腰掛便器を設置したすべての便房(一般便房、多機能便房とも)で、便器の横壁面に便器洗浄ボタン及び呼出ボタンの両方又はいずれか1つを設置する場合。

### ①便器洗浄ボタン・呼出ボタンの色・コントラスト

- ボタンの色 相互に識別しやすい色の組合せとする。例えば、便器洗浄ボタンの色 を無彩色又は寒色系、呼出ボタンの色を暖色系とすることが望ましい。
- ボタンの色と周辺色のコントラスト 操作部は、ボタンの色と周辺色(器具のボタン部以外の色)とのコントラストを確保する。

### ②便器洗浄ボタン・呼出ボタンの形状

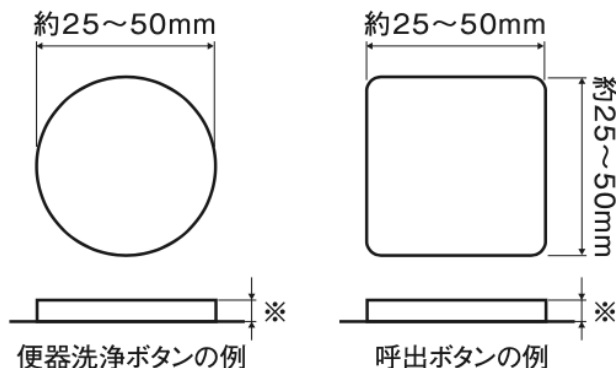
(便器洗浄ボタン)

ボタンの形状は、丸形(○)とする。

(呼出ボタン)

ボタンの形状は、便器洗浄ボタンと区別しやすい形状とする。例えば、四角形(□)または三角形(△)

※ ボタンの高さは目の不自由な人が触覚で認知しやすいように、ボタン部を周辺より突起させることが望ましい。



便器洗浄ボタンの例

呼出ボタンの例

## ③紙巻器・便器洗浄ボタン・呼出ボタンの配置

操作部及び紙巻器の配置は、次による。(以下、JIS 本体より抜粋)

- 操作部及び紙巻器は、便器座位、立位などの姿勢の違いも含めて多くの利用者が操作可能で、かつ、視覚障害者にも認知しやすい配置とする。
- 操作部及び紙巻器は、腰掛便器の左右どちらかの壁面にまとめて設置する。
- 便器洗浄ボタンは、紙巻器の上方に設置し、呼出ボタンは、便器洗浄ボタンと同じ高さで腰掛便器後方に設置する。
- 操作部及び紙巻器は、表1の条件を満たす位置に設置する。
- 操作部及び紙巻器と同一壁面上に、手すり、温水洗浄便座リモコン、手洗器などの器具を併設する場合には、各器具の使用・操作を相互に妨げないように配置する。
- 操作部及び紙巻器と同一壁面上に手すり、温水洗浄便座リモコン、手洗器などの器具の併設又は紙巻器、腰掛便器横壁面の形状などによって、表1の配置及び設置寸法によらない場合であっても、c)の位置関係は満たすものとする。
- 呼出ボタンは、利用者が転倒した姿勢で容易に操作できる位置にも設置することが望ましい。

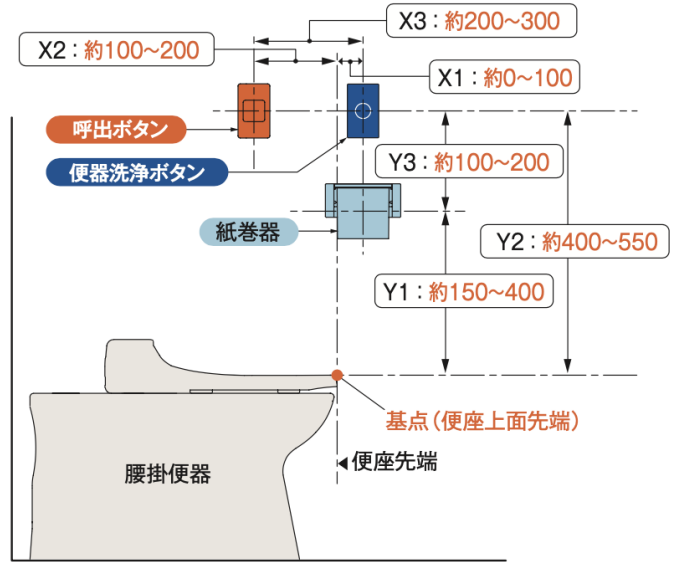
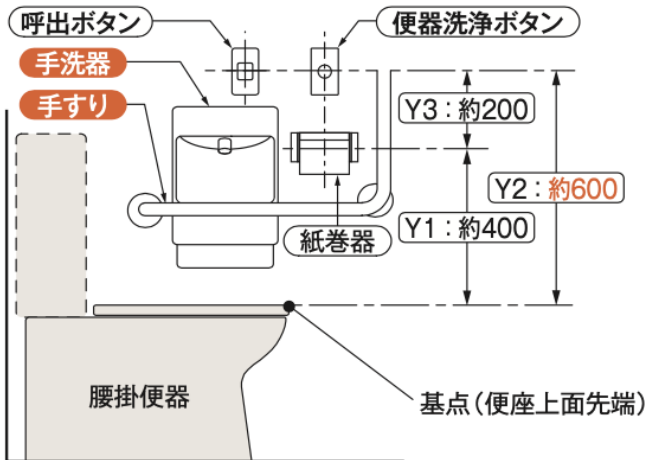


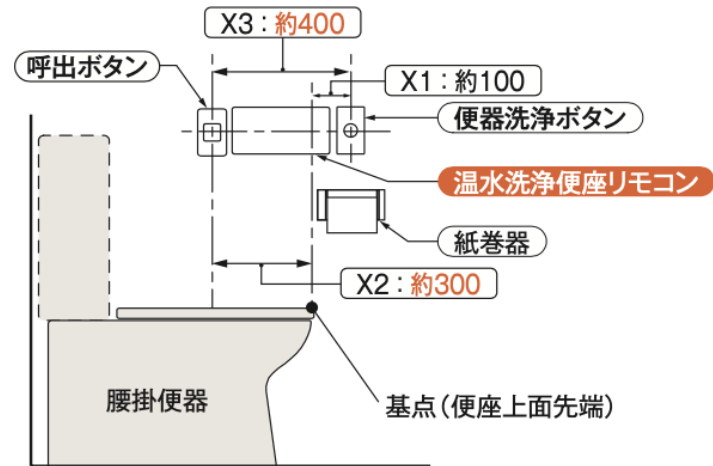
表1：操作部及び紙巻器の配置及び設置寸法

器具の種類	便座上面先端(基点)からの水平距離	便座上面先端(基点)からの垂直距離	二つの器具間距離
紙巻器	X1: 便器前方へ 約0~100	Y1: 便器上方へ 約150~400	—
便器洗浄ボタン		Y2: 便器上方へ 約400~550	Y3: 約100~200 (紙巻器との垂直距離)
呼出ボタン	X2: 便器後方へ 約100~200		X3: 約200~300 (便器洗浄ボタンとの水平距離)

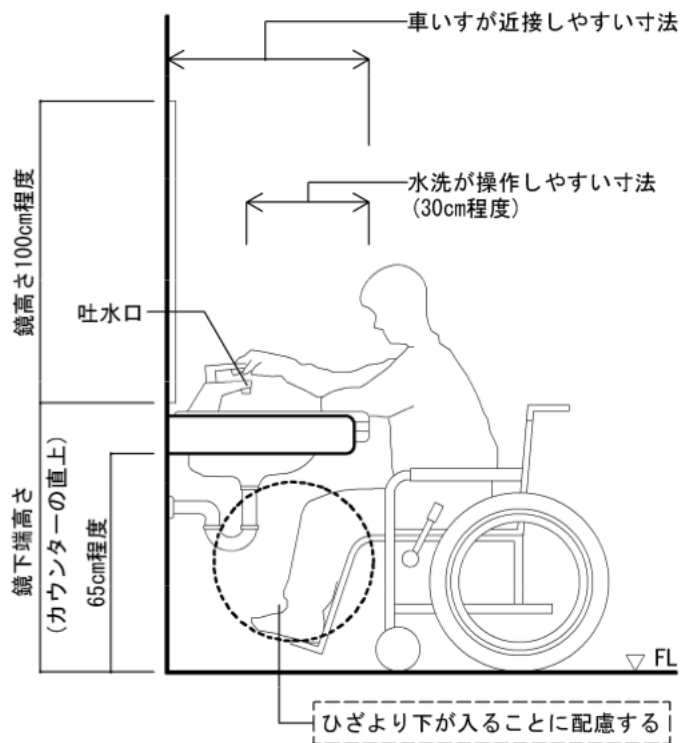
### <同一壁面上に、手すり、手洗器を設置する場合>



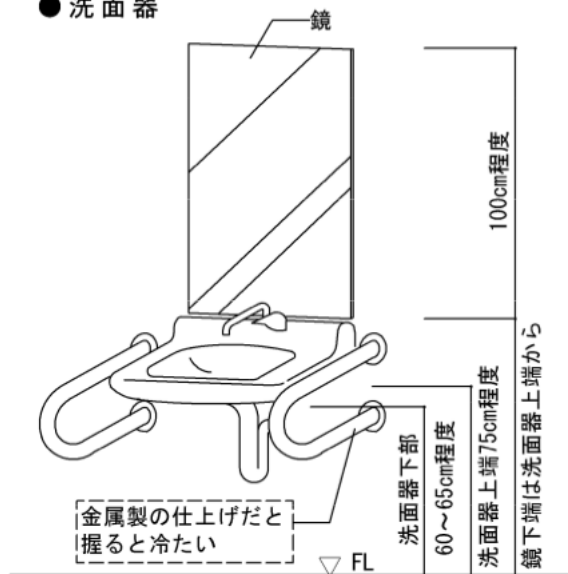
### <同一壁面上に、温水洗浄便座リモコンを設置する場合>



## ●車いす使用者が利用しやすい洗面化粧台



## ●洗面器



# トイレ

## ■トイレの現状の問題点4

多目的トイレの使用時間	ライトの点灯間隔が短い。利用するのに10分から15分かかる人もいる。 時間が来ると扉が開く場合（緊急時対応のため）があるが、利用するのに10分から15分かかる
-------------	--



### <短期的な解決の方向性>

- トイレを利用するユーザーの中には、利用に時間を要するユーザーもいることを認知・理解する
- 自動点灯のライトの点灯間隔時間の変更が可能であれば点灯感覚を調整する（少し長くする）
- 安全上一定時間利用をすると扉が開閉するタイプのドアがある場合、ユーザーの利用実態に合わせた時間設定をすると共に扉が開閉した際のプライバシーの確保としてカーテンの設置なども検討する

## ■トイレの現状の問題点5

トイレの案内表示	ユニバーサルトイレに点字がなく、女性トイレ前に点字の案内ある。来ないとわからない トイレの表示が隠れて見えにくい。位置の見直し。 （多目的）トイレの表示位置。近くまで来ないと発見出来ない トイレ等の表示の大きさが小さい オストメイト等トイレの外に表示が無い 館内案内図にトイレの機能を明示すること トイレの表示、光の意味、役割が無い。ハウリングしている
----------	--



### <短期的な解決の方向性>

- 案内表示がない箇所については簡易的でも構わないのでしっかりと表示をする
- 弱視者等にも配慮し、案内表示は大きさや設置位置に配慮したものとする
- 案内地図にはトイレの位置だけでなく、機能も含めて表示をする

※トイレの案内表示に関する詳細は「案内表示」を参照に